

公園墓地のさきがけ

開苑55周年

我が家族、
春秋苑に眠る。

映画監督・1924年～2005年

岡本喜八



故・岡本喜八氏のご夫人・岡本みね子さん。
春秋苑に「故郷の大山」を創り、夫を送る。

喜八さんは山が大好きで、自分の葬儀用に故郷・米子の大山の絵をお願いしていたんです。告別式は、ご近所で親しい交流のある春秋苑で。主人好みに創作された大山を背景に、本物の菜の花を8000本。撮影に使うような本格的なセットを皆で作って、最期まで映画屋らしく送りだしました。自筆の署名と喜八プロのファミリーマークを刻んだお墓は、今も仲間が集う場所になっています。

●岡本喜八氏のプロフィール 高知県出身。東宝映画「結婚のすべて」(1958)で監督デビュー。「独立愚連隊」「肉弾」「ジャズ大名」など、シリアスなテーマからコメディまで多彩な作品を手掛ける。「大誘拐 RAINBOWKIDS」(1991)で日本アカデミー賞最優秀監督賞・最優秀脚本賞を受賞。

写真協力：喜八プロダクション

ご利用者の宗教・宗派を問いません

お問い合わせ資料のご請求は

0120-07-4100
<http://www.shunjuen.or.jp/>

小田急線生田駅
高級公園墓地

春秋苑

〒214-0036 神奈川県川崎市多摩区南生田8-1-1

今も映画仲間をつなぐ、心のメモリアル。

故・岡本喜八氏の墓所について、

ご夫人・岡本みね子さんにインタビュウしました。

ベランダから見える近さの

春秋苑。長いお付き合いです。

喜八さんは宮大工の八代目。鳥取県米子市にある菩提寺の書院も、お祖父ちゃんが作ったと聞きました。

でも、喜八さんは、墓所については、ご近所で個人的にも親しい春秋苑が気に入って。ずいぶん早い時期に、私の母と喜八さんの分、隣同士の二区画を購入したんです。

その後、喜八さんは自分の区画を次



女に譲りました。「お母さん一人じゃ寂しいから、俺が一緒（のお墓）に入るよ」なんて言っていましたね。

でも、すでに亡母の名を刻んだ墓石をどうするか。それが問題でした。

常識に囚われない発想で

お墓が生まれ変わりました。

結局、喜八さんが亡くなった後、墓石を削って母の名を消し、そこに「岡本喜八」の自筆サインを新たに刻み直した。墓碑には喜八プロダクションの「ファミリーマーク」を。どちらも驚くほどピッタリと収まりました。

普通の人がやらないことをやる。作りたいと思ったものを作る。そんな映画監督・岡本喜八らしいお墓になった

と思っています。

墓所の周りには、母の好きだった花を季節毎に植えています。それを楽しみに来てくださる方も多いんですよ。

喜八さんと二人三脚で映画製作に携わってきた私は、世間から見ると変わった女房かもしれません。喜八さんのガンが見つかった後「人はいつか必ず亡くなる。今のうちに、あなたの納得の行く葬儀の背景画を描いてもらわない？」と言ったんです。

喜んで逝ってほしいから闘病中に提案をしたんです。

喜八さんと二人三脚で映画製作に携

わってきた私は、世間から見ると変

った女房かもしれません。喜八さんの

ガンが見つかった後「人はいつか必ず

亡くなる。今のうちに、あなたの納得

の行く葬儀の背景画を描いてもらわ

ない？」と言ったんです。

喜八さんは、その提案をすごく喜ん

でくれて。日本映画の背景画の第一人



者で親しい友達でもある島倉二千六さんに、喜八さん自ら、故郷・米子の大山の絵をお願いしました。

故郷の大山に抱かれて

春秋苑から旅立ちました。

それから約一年後。春秋苑で、喜八さんの葬儀を行いました。背景は、大山の表と裏を一連なりに描いたオリジナル大山。その麓には、時期を早めて開花させた本物の八千本の菜の花畑。

本格的な撮影セットを組むかのように働いてくれた仲間達。陰で助けてくださった近隣の皆さん。様々な絆に支えられ、最期まで「映画屋」らしく喜八さんを送り出すことができました。

今も皆が、喜八さんと話しに春秋苑へ来てくれます。お墓が仲間をつなぐメモリアルになっていること。喜八さん本人が一番喜んでいてる気がします。

